

一般社団法人 兵庫県社会福祉士会

2020 年度事業報告について

## 『総括』

2020年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大という未曾有の事態が発生し、本会の活動にも多大な影響が生じた。

本会の事業の大半が研修事業であるが、専門職としての必要な「学び」を止めないことを基本原則とし、研修の実施方法・体制に頭を悩ませ、汗をかいた一年であった。

4～5月に開催を予定していた研修は中止・延期を余儀なくされたが、感染拡大防止を進めながら研修を提供するために、「新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言を踏まえた活動方針」を定め、基礎研修をはじめ多くの研修で、オンライン会議システムを利用した遠隔開催が実現できた。また、「新型コロナウイルス等感染症対策のための集合形式による研修及び会議等開催におけるガイドライン」を定め、緊急事態宣言発令期間以外での集合研修の開催へ向けての指針とした。今年度の研修は、まさに参加された会員・研修講師・担当委員会・事務局の皆様のご協力があったからこそ成り立ったものである。ここに厚く感謝申し上げる。

また、本会における啓発・交流活動においては、ソーシャルワーカーデーは開催中止と判断したが、ソーシャルワーク関係5団体合同研修はZoomによる遠隔開催とし、一定の交流が実現したが、オンライン上での交流の限界もあった。

兵庫県等からの受託事業については、会員の参画と協力を得て引き続き担うとともに、災害時の要援護者の個別支援計画を作成する「防災と福祉の連携による個別支援計画作成促進事業」を県下に拡大するなど積極的に取り組んだ。

本会の決算収支を見ると、人件費の増加や消費税の増税の影響などにより、事業の見直しや経費削減にも限界に達していたため、2020年度より現行会費を1,000円値上げし、会員の皆様にはご負担をお願いした。これらの予算を確保しつつ、研修開催時の最少催行人数制の導入や日本社会福祉士会への会員管理業務委託契約解除等の予算執行の節約と、県受託事業の拡大、さらにコロナ関係の助成金を獲得することにより、約1,200万円の黒字となり3期連続して黒字を確保することができた。ただし、この黒字に関しては有意義に活用するため、積立等の運用を検討する必要がある。

2020年度の会員数は会費値上げやコロナ禍の影響もあり、2019年度末の会員数より13名の減少と伸び悩んだ。しかし、過去5年では約300名増加しており、2020年度までの第1期中期計画の目標（会員2,000名）は達成できなかったが、入会促進の施策がある一定の効果があったと認められた。

新型コロナウイルス感染拡大の収束が不透明な中で、感染拡大に対する不安や休業による生活苦など、これまで私たちが経験したことのない事態が起こっている。このような厳しい社会状況の中で、専門職たる社会福祉士が社会的弱者や医療・介護が必要な人たちへの支援をいかに継続していくかが問われている。そのためにも、新たな組織運営や会員の資質向上のための研修体系や研修方法の確立とともに、新たな生活様式を念頭に置きつつ、本会運営を推進していく必要がある。

# 事務局 報告

## 1 第22回 総会の開催

期 日： 2020年6月27日（土）  
会 場： 兵庫県福祉センター 1階多目的ホール  
議 題： (1) 2019年度事業報告（案）について  
(2) 2019年度決算報告（案）ならびに監査報告について  
(3) 役員改選について  
報告事項： (1) 兵庫県社会福祉士会 2020・5カ年発展計画の2019年度の進捗状況について

## 2 第23回 総会の開催

期 日： 2021年3月27日（土）  
会 場： 兵庫県福祉センター 202会議室  
報告事項： (1) 2020年度補正予算について  
議 題： (1) 2021年度事業計画（案）について  
(2) 2021年度予算（案）について

## 3 記念講演会

期 日： 2021年3月27日（土）  
会 場： 兵庫県福祉センター 202会議室  
演 題： 「ソーシャルワーカーとしてつないでいくこと  
～「社会福祉士会」の歩みから～  
講 師： 岡田 誠 氏（兵庫県社会福祉士会 相談役）

## 4 2020年度 理事会の開催

第1回	5月16日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第2回・3回	6月27日（土）	兵庫県福祉センター 1階多目的ホール
第4回	7月18日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第5回	10月31日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第6回	12月20日（日）	オンライン（Zoom ミーティング）
第7回	1月16日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第8回	2月20日（土）	オンライン（Zoom ミーティング）
第9回	3月27日（土）	兵庫県福祉センター 202会議室

# その他 報告事項

## 1 各種大会・研修会・会議などの参加

- ・日本社会福祉士会総会、日本社会福祉士会会長会議、生涯研修委員会議、日本社会福祉士会各委員会、近畿ブロック代表者会議 等

## 2 本会推薦（2020年度）主なもの

日本社会福祉士会	理事	中山 貴之	本会副会長
日本社会福祉士会 こども家庭委員会	委員	田邊 哲雄	本会会員
日本社会福祉士会 生活困窮者支援委員会	委員	近藤 健太	本会会員
日本社会福祉士会 基礎研修開発プロジェクト	チームメンバー	土谷 長子	本会理事
兵庫県社会福祉協議会	評議員	谷口 弘	本会会長
兵庫県社会福祉協議会 権利擁護部会	委員	谷口 弘	本会会長
兵庫県社会福祉協議会 社会福祉研修委員会	委員	谷口 弘	本会会長
兵庫県社会福祉協議会 福祉人材センター運営委員会 及び福祉人材確保推進協議会	委員	中山 貴之	本会副会長
兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉サービス運営適正化委員会 選考委員会	委員	中山 貴之	本会副会長
兵庫県社会福祉協議会 兵庫県福祉サービス運営適正化委員会	委員	西野 佳名子	本会会員
兵庫県社会福祉協議会 日常生活自立支援事業契約締結審査会	委員	乾 なち子	本会会員
社会福祉法人兵庫県共同募金会	第三者委員	谷口 弘	本会会長
社会福祉法人経営等審査会	委員	西野 佳名子	本会会員
兵庫県リハビリテーション協議会	理事	谷口 弘	本会会長
兵庫県プライマリ・ケア協議会	監事	谷口 弘	本会会長
兵庫県介護支援専門員協会 倫理特別委員会	委員	増山 陽子	本会理事
兵庫県立高等学校におけるいじめ重大事態調査委員会	委員	馬場 幸子	本会会員
神戸市社会福祉協議会 成年後見判定委員会	委員	岡田 誠	本会相談役
神戸市介護認定審査会	委員	柘田 節子	本会会員
	委員	増山 陽子	本会会員
	委員	加戸 陽子	本会会員
	委員	乾 なち子	本会会員
	委員	岸本 裕子	本会会員
	委員	原 信行	本会会員
	委員	榎本 昌起	本会会員
こうべ安心サポート委員会	委員	植田 京子	本会会員
権利擁護事業部会 事業運用審査委員会	委員	大庭 光子	本会会員
	委員	山本 勝之	本会会員
神戸市市民福祉調査委員会	特別委員	増山 陽子	本会理事
神戸市地域包括支援センター運営協議会	委員	山内 賢治	本会会員
神戸市高齢者虐待防止連絡会	委員	田島 啓子	本会会員
神戸市消費生活会議	委員	植田 京子	本会会員
神戸市生活困窮者自立支援事業等委託団体審査委員会	委員	西野 佳名子	本会会員
三木市成年後見支援センター運営協議会	委員	谷田 芳浩	本会会員
三木市地域包括支援センター運営協議会	委員	木村 由子	本会会員
高砂市地域包括支援センター運営協議会 及び地域密着型サービス運営委員会	委員	宇都宮 ゆか	本会会員
加古川市いじめ問題対策委員会	委員	三木 一子	本会会員
加古川市自立支援給付審査会	委員	村上 弘幸	本会会員
	委員	森保 純子	本会会員
加古川市成年後見制度利用促進及び権利擁護制度検討委員会	委員	樹下 和幸	本会委員
姫路市地域福祉計画策定会議	委員	伊東 圭一	本会副会長
姫路市ホームレス自立支援実施計画懇話会	委員	酒井 淳子	本会会員
姫路市成年後見支援センターネットワーク会議	委員	魚住 剛	本会理事
姫路市高齢者虐待防止ネットワーク会議	委員	橋本 真輔	本会会員
川西市成年後見支援センター運営委員会	委員	木高 壽子	本会会員
明石市後見支援センター受任調整委員会	委員	森保 純子	本会会員
西宮市高齢者・障害者権利擁護支援センター運営委員会	委員	西川 圭一郎	本会会員
丹波市いじめ問題専門委員会	委員	田邊 哲雄	本会会員
播磨町権利擁護支援体制整備検討委員会	委員	森保 純子	本会会員

# 委員會報告

## 1 総括

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大幅な計画変更を余儀なくされた。施設見学はすべて中止とし、集合型の研修等も中止や延期、あるいは開催方法の再検討を迫られた。一方で、新しい様式での研修・行事に挑戦する、またとない好機でもあった。

基礎研修が早い段階で Zoom を利用した開催を決定していたことも追い風となり、必要に応じて運営に協力しながら、我々もオンライン研修のノウハウを獲得していった。

「福祉専門ゼミナール（愛称：こうのとりゼミ）」は、前期（5月～7月）はやむなく中止としたが、後期（11月～1月）は初のオンライン研修として開催。関心の高いテーマに加え、これまで時間的・地理的に集合参加できなかった人が今回は自宅から受講できたことから、例年よりも参加者が増加した。

「マインドフルネス連続講座」は集合とオンラインでのハイブリッド形式で実施。運営面ではオンラインと対面、両方の参加者に満足してもらう難しさにも直面した。しかし、最新の知見を交えた質の高い内容で、このコロナ禍でさらに重要とされる専門職のストレスケアに貢献することができた。

会員交流事業も Zoom で開催。無料のアプリケーションを活用した「オンライン名刺交換」や「オンラインビンゴ大会」を導入し、会員同士が直接対面できずとも親睦が深められるよう工夫した。

委員会も Web 会議として 5 月から毎月実施。コロナ禍において、会員の学びや交流の機会を止めることなく提供できたことは、何よりの成果だと考える。これらの新しい様式での研修・行事は、講師や参加者、事務局の協力なしには実現できなかった。心より感謝申し上げたい。

## 2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
8	29	53 名	Zoom	会員交流事業「オンライン納涼会」
11	8	15 名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期① 「ソーシャルワーカーが支援する自殺予防～基本理解とバーンアウト防止のために」 藤塚 奈穂子 氏（すと・らっと相談支援センター）
11 12	11 18 25 2 9 16	32 名	神戸市勤労会館 オンライン（Zoom）	マインドフルネス連続講座 講師：池埜 聡 氏（関西学院大学人間福祉学部）
12	13	12 名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期② 「ひきこもりの支援の課題～8050 問題と家族への支援～」 藤本 圭光 氏（KHJ 全国ひきこもり家族連合会・神戸オレンジの会）
12	19	23 名	Zoom	会員交流事業「オンライン忘年会」
1	10	14 名	Zoom	福祉専門ゼミナール<こうのとりゼミ>後期③ 「フィンランドに学ぶ対人援助～不確実な状況における対話的支援とは～」 川田 美和 氏（兵庫県立大学看護学部）

3	12	10名	Zoom	委員会内学習会 「ファシリテーションについて」 岡本 和久氏・近藤 健太氏（本会会員・研修委員）
---	----	-----	------	--

### 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	16	13名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
6	13	8名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
7	11	12名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
8	1	15名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
9	5	7名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
10	3	11名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
10	17	2名	兵庫県福祉センター	次年度予算案の検討 委員長交代に係る事務引継ぎ
11	8	13名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
12	5	8名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
1	16	9名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
2	6	11名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)
2	25	2名	兵庫県福祉センター	委員会内学習会打ち合わせ
3	6	10名	自宅・兵庫県福祉センター等	研修・行事の企画調整 (Zoom)

## 1 総括

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、年度当初から Zoom などを取り入れ会議を行った。また、「ソーシャルワークアカデミー」を中止し、「新型コロナウイルス感染症パンデミックについての社会福祉士の活動に関するアンケート」と題したコロナ禍での社会福祉士の現状を調査分析した。

この調査は、212名の回答をもとに、社会福祉士の暮らしの変化とクライアントの暮らしの変化の両面に焦点を当てて行った。調査を進めるにあたり、委員が1箇所に来ることが難しく、複数のチームに分け工夫して活動した。そして、改めて広い分野で社会福祉士が活躍し、奮闘していることが明らかになった。詳細は理事・委員長会ならびに下記の実践研究発表会にて報告している。

また、「実践研究発表会」を Zoom により開催した。実践研究の基礎に関する講義と3名の発表があり、コロナ禍であるからゆえの、実践発表・研究の必要性を認識できた。

## 2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	17	212名	Zoom等	新型コロナウイルス感染症パンデミックについての社会福祉士の活動に関するアンケート
2	14	23名	Zoom	実践研究発表会&勉強会

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
4	24	8名	Zoom	2020年度計画の確認と変更
6	14	10名	兵庫県福祉センター	アンケート集計等
6	28	7名	兵庫県福祉センター	アンケート集計等
7	5	5名	兵庫県福祉センター	アンケート集計等
8	16	7名	兵庫県福祉センター	アンケート集計等
8	28	8名	Zoom	アンケート集計等
9	5	6名	オアシスデイサービス	アンケート集計等
10	3	6名	兵庫県福祉センター	アンケート集計等
10	7	5名	兵庫県福祉センター	事業に向けて打ち合わせ
11	22	7名	兵庫県福祉センター	事業に向けて打ち合わせ
12	13	6名	兵庫県福祉センター	事業に向けて打ち合わせ
1	16	7名	Zoom	事業に向けて打ち合わせ
2	11	5名	Zoom	事業に向けて打ち合わせ 最終確認
2	24	7名	兵庫県福祉センター	振り返りと来年度体制について

※アンケート集計・分析のため各チーム上記の日程以外でも打ち合わせを行った。



## 1 総括

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8月から10月にかけて5日間計画した国家試験対策講座が開催できなくなった。委員会で検討し、本会のガイドラインに従い、国家試験対策講座を11月～12月にかけて4日間開催した。

### (1) 国家試験受験対策講座の開催

当委員会の主事業である「社会福祉士受験対策講座」は、兵庫県精神保健福祉士協会と共催し、11～12月にオンライン開催した。受験科目19科目のうち17科目を開講し、受講者は35名であった。本会ホームページ内、受講生専用Webサイト上の交流掲示板にて試験勉強の相談や模擬試験・受験対策の心得を発信し、開講前から試験合格発表まで受講生のフォローアップを行った。一方で、「自習室開放・補講」はオンライン講座に切り替えた為、開催することができなかった。2021年度は、対面形式での講座の開講を企画しつつ、対面式での講座開催が困難な場合に備えてオンライン講座に切り替える措置を検討しておきたい。

### (2) オンライン対応を中心とした活動

年度当初より新型コロナウイルス感染拡大防止策として、年間予定の大半をオンラインで実施した。Zoom操作やオンライン対応に伴う事務量の増加、慣れない作業による戸惑い等々、運営には遅延や支障が生じる場面もあったものの、関係者の理解と支援によって、講座は滞りなく開催できた。本会ホームページ上で動画配信をして受講者を募集した結果、県外からの受講者もあった。

また、2021年2月7日の試験当日に、当委員会有志で「解答速報」を作成し、試験翌日に上記専用Webサイトに掲載し、150問中149問正答と精度は高かった。一方で、他業者・団体により試験翌日には解答速報が動画配信されており、本会の独自性は少ないという意見もあった。「受験生に寄り添った支援」として、解答に至る解説、分析を加味することを重視し、次年度も継続したい。

### (3) 講師養成への取り組み

2020年度はオンライン講座に切り替えたこともあり、前年度からの継続者又は講師経験が豊富な方に講師を依頼し、国家試験対策講座の円滑な運営を優先した。9月には講座担当講師との講師会議を通して意見交換及び留意点の確認を行った。そのため2020年度は新たな講師を募集できなかった。

委員会としては、本会会員から広く希望者を募り、国家試験対策講座の委員会活動への参画を促したり、聴講やチューター経験を通じて、講師養成の機会を会員に周知していきたい。そのためには、講師養成希望者の募集、試験出題傾向の変化と各科目における試験分析を講師会議で伝達し、講座を担うための情報整理と受講生への対応などフォローアップを行っていく。

### (4) 社会福祉士養成校等との連携

養成校等との連携は、神戸女子大学より講師派遣依頼(全科目)に加えて、新たに関西学院大学より4科目の講師派遣依頼があり、講師を派遣した。

また、阪神ブロックにおける自主ゼミ開催にあたり、全日程4日間ゼミチューターを派遣した。

### (5) 近畿ブロック他府県士会との連携

近畿ブロックとの連携については、2015年度より開催した近畿ブロックの国家試験対策担当者会議が中断し、開催することができなかった。

コロナ禍の中で、この会議の意義を確認・共有することで2021年度は会議を再開させ、近畿ブロック他府県との情報交換や連携を図っていく必要がある。

### (6) 入会促進 (①合格祝賀会の開催 ②受講生を対象にした会員割引の実施)

入会促進活動としては、2020年度は合格祝賀会が開催中止となり、試験合格者には、入会案内やお祝いメッセージを送り祝意を伝えた。一方で試験日当日の受験生への激励とねぎらい、社会福祉士会の広報誌配布は、緊急事態宣言発令のため中止とした。国家試験対策講座受講生に対してのみWebサイトでの応援を行い、受講生からは「当日の応援に勇気が出た」などの声を試験終了後に聞くことができた。当委員会としては、社会情勢に応じてこれらの活動を再開・実施し、入会促進に取り組んでいく。

## 2 事業報告

### ① 社会福祉士・精神保健福祉士オンライン受験対策講座の開催

日程：2020年11月1日、15日、29日、12月6日

時間：9:00 又は 9:30～17:00

場所：Zoomによるオンライン、スタッフ拠点は兵庫県福祉センター又は灘区市民センター

申込者数：1. 社会福祉士コース 32名(20名)、※( )はうち学生割引対象者数  
 2. 社会福祉士専門コース 1名(1名)  
 3. 精神保健福祉士コース 1名(1名)  
 4. 精神保健福祉士専門コース 2名(2名)  
 5. 社会福祉士・精神保健福祉士(同時受験)コース 1名(1名)  
 計 37名(25名)

—社会福祉士受験対策講座の合格率—

受験生：10名の受験番号確認はがきの返信

合格者：7名 合格率：講座参加者数と登録者数に乖離があるため算定不可

### ② 社会福祉士国家試験 統一模擬試験

日時：2020年10月25日(日) 10:00～15:30

場所：在宅受験

### ③ 合格祈願参り

日時：2021年1月30日(土)

場所：神戸北野天満宮

### ④ 第33回社会福祉士国家試験 解答速報作成

日時：2021年2月7日(日) 12:00～20:50

場所：兵庫県福祉センター

### ⑤ 講師・チューター派遣

2020年12月～2021年1月 神戸女子大学直前対策講座への講師派遣(19科目)

2020年12月～2021年1月 関西学院大学試験対策講座への講師派遣(4科目)

2020年10月～2021年1月 阪神ブロック自主ゼミ(オンライン)チューター及び合格体験談派遣

### ⑥ 社会福祉士国家試験 直前対策講座 開催中止

社会福祉士試験日当日の激励とねぎらい 開催中止

近畿ブロック国家試験対策委員会担当者連絡会 開催中止

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場所	内容
4		16名	書面	(対面式での) 講座開催について意見集約・中止
6	25	14名	Zoom	本会動向報告・事業計画見直し、今年度の活動について再検討
7	12	13名	Zoom	オンライン講座及び全国統一模試の開催協議、講師派遣について
8	9	13名	Zoom	オンライン講座開催・講師会議開催進捗状況、開催要項について
9	27	社福17名 精神8名	Zoom	①講師会議(開催スケジュール、ZOOM対応確認、質疑応答) ②委員会：講座会場・ZOOM対応、開催要項・動画配信等
10	31	7名	Zoom	オンライン講座調整、Webサイト、事業予算・計画について
12	6	11名	Zoom	オンライン講座報告、予定確認、養成校講師派遣依頼について
1	24	13名	Zoom	合格祈願、当日激励中止、試験解答速報制作準備について
2	21	12名	Zoom	試験解答速報制作報告、2012年度国試対策講座について
3	21	14名	Zoom	講師選定、33回試験合格発表、合格祝賀会について

## 1 総括

2020 年度は当委員会も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた。2020 年 4 月に発出された 1 回目の緊急事態宣言により、本会事業の開催見通しが立てづらくなり、従前までは 7 月に発行していた会員機関誌「こうのとりの通信」を 8 月に変更して発行した。また、これまで年 2 回発行していた広報誌も、取材等を自粛することにより年度内の発行を見送った。委員会の開催方法については、感染拡大防止の観点から対面式ではなく、2020 年 4 月～2021 年 3 月まで Zoom ミーティングを活用したオンライン会議にて開催した。初めて使用するオンラインでの会議だったこともあり、手探りでの開催となったが、会場の空き状況による制約もなく、移動にかかる時間も節約することができたということもあり、2021 年度も引き続きオンラインでの会議を継続し、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、対面式での会議開催を検討していく。

また、前述の通り、コロナ禍により急遽中止や延期せざるを得ない研修やイベントについては、その都度ホームページに掲載し、会員その他一般参加者への周知に務めた。

コロナ禍により 2020 年度は人との接触を避ける観点からオンライン体制が急速に進んだ。これまで当たり前と思っていた価値観が大きく変わる一年になった。本会の広報のあり方についても従前通りの方法だけではなく、時代にあわせて刷新し、更に改良していけるよう務めていく。

## 2 事業報告

- (1) 会員機関誌「こうのとりの通信」の発行  
(年 4 回 No. 102 春号 4 月 No. 103 夏号 8 月 No. 104 秋号 10 月 No. 105 新春号 1 月)
- (2) ホームページ及び Facebook の運営、会員機関誌・ホームページでの広告スペースの提供
- (3) 兵庫県社会福祉士会メーリングリスト(ひよこ ML)の運営  
登録者数：782 人 (2021 年 3 月 31 日現在) 新規登録者数：80 人 (2020 年度)
- (4) 委員会の開催 (6 回)

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場所	内 容
4	11	10 名	Zoom	Zoom での会議について、こうのとりの通信夏号の発行時期について
5	9	7 名	Zoom	こうのとりの通信 (会員からの情報発信ページ) について、こうのとりの夏号について、広報誌について
7	4	9 名	Zoom	こうのとりの通信夏号校正、広報誌について
9	5	8 名	Zoom	こうのとりの通信秋号校正、広報誌について
12	5	9 名	Zoom	こうのとりの通信新春号校正、次年度の体制について
3	6	8 名	Zoom	こうのとりの通信春号校正

## 1 総括

2020年度は「福祉なんでも相談」を活動の要とし、相談事業の継続・充実に努めることに加え、委員会メンバー同士の情報交換を密にし、それぞれの職場での相談スキルの向上を図ることも活動の目的とした。しかし、2019年度末からのコロナ禍の影響で、集合しての定例会・勉強会が開催できず、オンラインでの定例会の開催も2020年度3回にとどまっている。

このような中で、福祉に関する相談援助に必要な福祉関連の制度改正に対する迅速な対応をすること、専門分野によるメンバー同士の役割分担を明確にし、知識向上と専門性を高めスキルアップを図るために、オンラインと集合型を合わせた勉強会を実施した。また、年に1回は県士会会員を対象とした経験交流会を開催し、相談委員会活動の周知と共に人材の育成を視野に入れた活動を続けていく。

## 2 事業報告

### (1) 「福祉なんでも相談」、「役員会・定例会・勉強会」

当委員会はこの「福祉なんでも相談」を活動の要とし、毎月1回第2土曜日13:00～16:00に福祉センター内当会事務局にて福祉の相談援助活動を行っている。

「福祉なんでも相談」についての実績については以下のとおり。

日時	場所	内容	相談件数	備考
4月11日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員1名
5月9日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員1名
6月13日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員1名
7月11日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
8月8日(日) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
9月12日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・」	0件	相談員2名
10月10日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
11月14日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会・」	2件	相談員2名
12月12日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
1月9日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
2月13日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」	0件	相談員2名
3月13日(土) 13:00～16:00	兵庫県福祉センター	「福祉なんでも相談」 「役員会・定例会」	0件	相談員2名

### (2) 「まちかど無料相談会・活動展示会」(兵庫県委託事業)

今年度はコロナ感染予防のため受託せず開催無し。

### (3) 相談業務経験交流会「何でも話そう座談会」

開催日時 2021年2月13日(土) 13:30~15:30

本会会員たちが様々な分野において相談業務に携わる中で、連携の重要性や困難事例への対応のコツなどを発表し話し合い経験を共有することで、参加者同士の交流を深め、ネットワークを広げ、お互いのスキルアップを図るものである。今後本委員会の恒例行事として毎年開催していく予定である。

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
9	12	7名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：2020年度役員体制について まちかど相談に代わる活動について
11	14	6名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：相談業務経験交流会 「何でも話そう座談会」企画
3	13	5名	兵庫県福祉センター ハイブリット型	定例会：年度総括 「何でも話そう座談会」振り返り

## 1 総括

当委員会では、学んできた理論を実践の場で活用すること、また実践を理論化していくことにより根拠のある支援を行うことを目指している。

学習会の開催により、学びあう姿勢を大切に、ソーシャルワークの在り方を再確認する場としている。また、必要に応じてこの「場」を広く知ってもらうために研修会も行っている。

## 2 事業報告

委員会は2ヶ月に1回のペースで開催。委員会と学習会を開催している。

学習会ではテーマを参加者が出し合い、相互に意見交換をして学び合う。ソーシャルワーカーとしての関わりを理論に照らして言語化し、日々の実践を理論に基づいたソーシャルワークとして振り返る。ソーシャルワーカーとしての知識、技術の向上に日々努めている。

ひよこメールリングリスト等で開催を周知。随時、参加を受け付けている。

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	10			新型コロナウイルスの影響により中止
7	5	8名	Zoom	委員会
9	13	13名	Zoom	委員会（連絡等） 学習会「実践報告紹介」
11	8	16名	Zoom	委員会 学習会「クライアントをシステムで見る必要性を考えさせてくれたMさん」
12	13	6名	Zoom	ZOOM 練習会
1	10	12名	Zoom	委員会 学習会「ポジショニングの大切さを教えてくれたアンビバレントな感情を抱えるEさん」
2	14	4名	Zoom	ZOOM 練習会
3	14	20名	Zoom	委員会 学習会「自立支援とは何かを考えさせてくれたMさん」

## 1 総括

前年度に引き続き 2020 年度は、『高齢者虐待対応力向上研修』『障害者虐待対応力向上研修』の主管を兵庫県より受託し、習熟度や行政機関、サービス事業所など対象者別にプログラムを作成し実施した。コロナ禍により開催スタートが遅れたものの集合研修のスタイルでの実施ができた。

また、虐待対応専門職チームの利用促進のため契約している市町との『虐待対応専門職チームの派遣要請等に関する意見交換会』や市町への電話でのワーキングア活用促進依頼を実施した。神戸市とは高齢者虐待のみでなく障害者虐待についてもワーキングチーム派遣契約を締結、下半期からのスタートにも関わらず 10 回の派遣を行った。2020 年度は講師・アドバイザー派遣及び研修事業の運営が主な活動となった。

## 2 事業報告

(1) 高齢者虐待専門職チーム派遣の契約市町（播磨町、加東市、稲美町、神戸市、多可町、西脇市、南あわじ市、豊岡市、姫路市、丹波市、朝来市、三田市 計 12 市町）と派遣実績

- ・ 契約市町との虐待対応専門職チームの派遣要請等に関する意見交換会：6/5  
出席市町：神戸市、播磨町、稲美町、西脇市、多可町、姫路市、丹波市
- ・ アドバイザー派遣
 

神戸市	5/11・6/5・7/10・7/15・8/25・8/27・10/20・10/27・12/17・1/15→21・3/12
	10/20・10/22・1/15・2/4・2/18・3/2・3/5・3/9・3/11・3/29
丹波市	12/2・3/24
西脇市	10/22
太子町	2/5
豊岡市	6/12・8/19・10/20
朝来市	9/7

(2) 講師派遣等実績

8/17	加東市	11/5・11/11	神戸市
8/20	猪名川町	12/9	(あんしんすこやかセンター)
9/24	神戸市東灘区	12/16	姫路市 (職員対象)
11/18・26	すみれ苑	1/15	川西市 (ケアマネ対象)
1/20	高砂市 (地域包括支援センター職員)		
2/26	丹波市 (職員対象)		
11/20	スクールきると		
2/20	専門職チーム派遣 経験交流会		

(3) 兵庫県弁護士会高齢者虐待対応専門職チームとのワーキング

7/15	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館・Zoom
8/11	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館・Zoom
9/15	契約市町との意見交換会	弁護士会館・Zoom
10/7	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館・Zoom
11/18	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館・Zoom
2/5	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館・Zoom
3/29	県委託事業等について検討・派遣報告	弁護士会館・Zoom

(4) 2020 年度高齢者虐待対応力向上研修 (兵庫県委託)

月	日	会場名		受講者数
9	3	のじぎく会館	(講義) A研修	52名
9	10	じばさんびる	(講義) A研修	27名
8	27	県民会館	(講義・演習) D研修	38名
9	29	じばさんびる	(講義・演習) D研修	41名
10	16	県民会館	(講義・演習) D研修	38名
9	17	但馬長寿の郷	(講義) A研修	39名
			(講義・演習) B研修	21名
			(講義・演習) C研修	19名
10	14	県民会館	(講義・演習) B研修	27名
11	18	じばさんびる	(講義・演習) B研修	21名
12	2	じばさんびる	(講義・演習) C研修	23名
12	15	県民会館	(講義・演習) C研修	12名
合 計				延 358 人

(5) 2020 年度障害者虐待対応力向上研修 (兵庫県委託)

月	日	会場名		受講者数
8	24	のじぎく会館	(基本講義) A研修	69名
9	4	姫路労働会館	(基本講義) A研修	81名
10	28	明石勤労会館	(基本講義) A研修	65名
10	1	のじぎく会館	(基礎演習) B研修	65名
11	10	姫路労働会館	(基本演習) B研修	67名
9	24	のじぎく会館	(応用演習) C研修	34名
12	8	のじぎく会館	(応用演習) C研修	37名
9	7	中央労働センター	(自治体職員向け)D研修	45名
10	13	姫路労働会館	(自治体職員向け)D研修	35名
合 計				延 498 人

(6) 神戸市障害者虐待対応力向上研修 (神戸市委託)

1月14日・27日 ― 神戸市中央研修センター虐待対応現任職員 17名・14名

(7) 神戸市 養護者による障害者虐待対応の手引き 改定委員として参画

(8) 「高齢者・障害者のための弁護士 電話法律相談」 毎月第1・5木曜日相談員派遣

### 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
7	5	16名	Zoom	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
9	19	18名	Zoom	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
11	8	22名	Zoom	県委託事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
1	24	19名	Zoom	来年度事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告
3	14	13名	Zoom	来年度事業等検討 講師・専門職チーム等派遣報告

他 運営委員会随時開会

委員会終了後、研修資料作成の協議、ワーキングチーム派遣に向けた勉強会等を開催している。



## 1 総括

家庭裁判所各支部と明石後見支援センターから本会への受任候補者推薦依頼が、昨年1月から12月まで220件あり、月平均18件/月届いた。一昨年の月平均15件/月から益々増加傾向となった。被後見人等に親族のかかわりが無く独居での在宅生活の支援や、入院中でこれから居所を選定して行くケースなど身上保護の必要とされる困難な事案が多く見られた。公募制で受任候補者を決定しているが、最初の募集では応募がなく、再募集、再々募集になることも多くなっている。

2020年度の成年後見人材育成研修(認証)の受講申込者数は12名有ったが、最小催行人数を満たせず、開催することが出来なかった。残念ながら近畿の他府県開催の研修受入も不可となり、ぱあとなあ兵庫の新規名簿登録者がいない結果となった。

昨年3月から新型コロナ感染予防対策の為、各エリアの名簿登録研修や全体会など開催中止となった。運営委員会も集合では開催できず、運営委員メールでの通知となり、会員への案内も会員メールの通知となった。7月より県士会で、ZOOMアカウント使用が可能となり、運営委員会をオンラインで開催することとなり、徐々に各エリアの名簿登録研修に活用できるようになった。1月30日意思決定支援実践ハンドブック伝達研修には、84名(ぱあとなあ兵庫名簿登録者以外の会員含む)、3月7日成年後見実務研修には、135名の会員に研修の機会を設けることとなった。

家裁本庁との連絡会、県社協主催の成年後見制度利用促進関連会議、近畿ぱあとなあ連絡会もオンラインでの開催となった。

また、未成年後見人養成研修10月10日・11日オンライン研修を開催し、全国から52名参加(内兵庫県14名)があった。今後、研修修了者の受任や支援体制の構築などを検討している。

## 2 事業報告

### 1 研修会・会議

#### (1) 家裁支部エリア別登録者研修会

ぱあとなあ活動の中心であるエリア別研修会を神戸、尼崎、伊丹、姫路、明石・加古川、社、柏原の家裁支部エリア毎に下記のように研修会を開催した。

月	日	内 容	参加人数
8	5	明石・加古川エリア リーガルサポートとの合同勉強会 (Zoomミーティング)	18
		被後見人等が逮捕されたら後見人等に何ができるか?	
8	22	姫路・龍野エリア (Zoomミーティング)	19
		ぱあとなあ登録者の活動状況と今後の受任可能な件数について 後見活動をする上での困りごとや悩みや質問等	
8	27	神戸エリア (Zoomミーティング)	16
		緊急事態宣言中の家裁の後見等事務取扱いについて コロナ禍の後見活動について	
9	5	伊丹エリア	20
		新しい書式を使った就任から終了事務までの資料作成演習	
9	26	柏原エリア	7
		会員同士でのケース発表	
11	11	明石・加古川エリア (Zoomミーティング)	24
		後見監督人の仕事について～法定成年後見監督人・基礎編	
11	28	姫路・龍野エリア	24

		成年後見利用促進基本計画の県内市町の動向 専門職後見人に求められる金銭管理と身上保護	
12	21	伊丹エリア ぱあとなあ兵庫活動報告書の説明	43
1	30	ぱあとなあ兵庫 (Zoomミーティング) 意思決定支援における動向・意思決定支援のためのツール活用	84
3	7	ぱあとなあ兵庫 (Zoomミーティング) 成年後見基本実務研修 都道府県ぱあとなあの仕事・受任後の実務・後見人のリスクマネジメント	135
3	20	尼崎エリア 西宮市市民会館 後見業務で知っておくべき民法改正の知識	28
3	25	神戸エリア (Zoomミーティング) 後見事務終了と相続財産の引き継ぎについて	46

- (2) 全体会議は開催中止。  
集合研修のため、6月11日（木）に名簿登録者の全体会を開催中止。
- (3) 成年後見人材育成研修（認証研修）は、最小催行人数員に達せず、開催中止。
- (4) 日本社会福祉士会主催「意思決定支援セミナー」への運営委員派遣。

## 2 後見活動報告書の提出と名簿登録

- (1) 今年度の期限内未提出者は2名であったが運営委員が提出を促し、受任中の全会員に提出していただいた。
- (2) ぱあとなあ兵庫名簿登録者は486名。未成年後見追記登録11名。

## 3 家裁への後見人等の推薦

今年度は家裁からの推薦依頼が順調に推移し、184件を推薦した。明石市をはじめとする自治体や地域包括支援センターからの依頼は、29件。  
奇数月に神戸家裁本庁との定例懇談会年間4回に委員長、副委員長等5名が出席。

## 4 他団体との連携

- (1) 家裁との連携
- (2) リーガルサポートとの連携  
エリア別研修会でもリーガルとの合同勉強会や講師とする取組みを各地で実施した。
- (3) 講師・委員の派遣  
自治体や社協等からの要請により、講師や委員の派遣を行なった。
- (4) ぱあとなあ近畿ブロック会議  
ぱあとなあ近畿ブロック会議が10月17日にZoomミーティングにて開催され委員長、副委員長が参加した。

## 5 その他

- (1) 権利擁護に関する相談が事務局に寄せられ、運営委員が対応をした。

## 3 委員会開催日

毎月第4土曜日（10時～12時）をZoomミーティングによりオンラインで運営委員会を開催した。すべてZoomによるオンライン開催

7月18日	8月22日	9月26日	11月7日	12月12日	1月30日	2月27日	3月27日
28名	28名	22名	26名	24名	27名	31名	28名

## 1 総括

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底した委員会活動となった。兵庫県下の地域包括支援センターが担う事業も従前のように、地域住民への訪問や一堂に会してという手法から、電話対応、リモートワークといった一定の距離を保ちつつ繋がる支援を余儀なくされ、センター業務の困難さが見えてきた一年でもあった。

そのため、地域包括支援センターが担う活動も、より地域の個別性への対応が求められる状況となり、センター個々の力が試される年度となった。

こうした状況も踏まえ、これまでと同様に地域包括支援センター職員への継続的な支援が必要な一方で、コロナ禍という特別な環境下におかれて更なるチーム力の向上を目指した職員体制への支援も同時に課題となった。

当委員会では、地域包括支援センターに配属された新任職員に向けて実施してきた初任者研修、また、兵庫県の委託事業として対応困難事例を通じたチームアプローチの強化や職員の困難事例への対応力向上を基礎とした研修プログラムを開発して実施してきた実績もあり、改めてこの時代に貢献すべき内容と判断し、時期、頻度を検討しながら参集型研修の開催を行った。

委員会活動を支える委員は、7 月以降から定例会議を通じて意見交換を図りお互いを支え合い高め合ってきた。リモートでの開催には至らなかったが、LINE を活用した連絡網を採用したりしながら、今年度はこうした委員会活動に興味や関心を持った会員が複数名、委員会メンバーとして参加をしている。

## 2 事業報告

- (1) 地域包括支援センター支援委員会定例会（7 月以降 3 ヶ月に 1 回開催）
- (2) 三職種団体との定期的な連絡会（コロナ禍のため 2 月 25 日に WEB 開催）
- (3) 研修の企画・実施  
地域包括支援センター初任者研修 令和 2 年 10 月 15 日  
困難事例対応力向上研修 令和 2 年 8 月 18 日～令和 3 年 2 月 16 日 計 6 回
- (4) 各ブロックとの合同情報交換会の開催  
今年度は合同情報交換会を開催できず。
- (5) その他、地域包括支援センターの社会福祉士に対するバックアップ機能の強化  
当該委員会への見学を随時受入れし、委員会メンバーへの参画もしていただいた。

## 3 委員会開催日

- (1) 定例会他

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	10	6 名	兵庫県福祉センター	「困難事例対応力向上研修」打合せ
6	25	6 名	兵庫県福祉センター	「困難事例対応力向上研修」打合せ
7	12	12 名	兵庫県福祉センター	定例会
7	29	6 名	兵庫県福祉センター	「困難事例対応力向上研修」共通研修打合せ
9	27	4 名	三宮	「困難事例対応力向上研修」演習 1 打合せ
10	2	6 名	三宮勤労会館	「困難事例対応力向上研修」演習 2 打合せ
10	11	11 名	兵庫県福祉センター	定例会
12	27	7 名	三宮勤労会館	「困難事例対応力向上研修」演習 2 打合せ
1	10	9 名	兵庫県福祉センター	定例会

2	25	2名	Zoom	地域包括支援センター関連三職種団体連絡会
---	----	----	------	----------------------

(2) 研修他

月	日	参加人数	スタッフ	場 所	内 容
10	15	26名	8名	兵庫県民会館	地域包括支援センター 初任者研修
8	18	38名	5名	姫路じばさんびる	困難事例対応力向上研修 共通研修①
9	15	42名	5名	のじぎく会館	困難事例対応力向上研修 共通研修②
11	13	37名	6名	のじぎく会館	困難事例対応力向上研修 演習 1-①
12	10	35名	6名	姫路じばさんびる	困難事例対応力向上研修 演習 1-②
1	19	25名	4名	県学校厚生会館	困難事例対応力向上研修 演習 2-①
2	16	39名	4名	姫路じばさんびる	困難事例対応力向上研修 演習 2-②

\* 困難事例対応力向上研修参加者 実人員 115名 延 216名

## 1 総括

2020年度はコロナ禍の影響を受け、当初予定していた集合研修をオンラインに変更して実施した。当委員会委員でもある関西学院大学の馬場幸子先生と連携して、「スクールソーシャルワーカースキルアップ研修」を開催できたことは大きな成果である。教育委員会主事やスクールソーシャルワーカー等を対象とした本研修は、4回シリーズの連続講座である。回を重ねるごとにオンラインでもスムーズに運営することができ、第3回目は会場とオンラインを併用して実施した。参加者からはコロナ禍において学びの機会を得ることができ研修に参加できてよかったという感想が聞かれた。また、ばあとなあ兵庫とこどもの権利擁護に関する研究プロジェクトチームが未成年後見人養成研修を実施した際、こども家庭支援委員会としてもファシリテーターとして協力したり、保育ソーシャルワークについても当委員会委員がその必要性について保育園と連携し状況把握に努めていくなど徐々に活動の幅も広がりつつある。

2021年度もこれらの事業を充実発展させつつ、委員一人ひとりの得意分野と強みと熱い想いを活かし、こども・家庭支援に関する活動をさらに展開しすすめていきたい。

## 2 事業報告

- (1) (1) 委員会定例会 開催 (5月、7月、8月、10月、11月、12月、2月、3月) 計8回
- (2) SSWスキルアップ研修 (4回シリーズ) 実施 参加申込み者 計53名
  - ① 6月6日 (土) 13:30~16:30 \*Zoomによるオンラインにて実施
  - ② 8月22日 (土) 13:30~16:30 \*Zoomによるオンラインにて実施
  - ③ 11月15日 (日) 13:30~16:30 \*県民会館にてオンライン参加と会場参加同時開催  
(オンライン参加 32名 会場参加 15名)
  - ④ 2月21日 (日) 13:30~16:30 \*Zoomによるオンラインにて実施
- (3) スクールソーシャルワーカー養成研修【認証研修】→中止 (来年度に延期)

## 3 委員会開催日

月	日	参加者	場所	内容
5	23	10名	Zoom	6/6 オンライン研修の予行演習、メンバーの近況報告
7	12	11名	Zoom	6月の研修の振り返り 8月の研修に向けて調整・打合せ
8	2	9名	Zoom	SSW研修(8月)の打ち合わせ
10	18	15名	県立神戸生活創造センター会議室	SSW研修(11月)の打合せ、メンバーの近況報告
11	1	7名	Zoom	11/15のSSW研修打ち合わせ、準備
12	13	6名	兵庫県福祉センター会議室	研修振り返り、保育ソーシャルワーク
2	6	8名	Zoom	2月研修打合せ、予算案検討、勉強会。
3	5	7名	Zoom	来年度事業について。勉強会

## 1 総括

2020 年度は、社会福祉士実習指導者講習会を除き、委員会活動、その他事業すべてにおいて Zoom を使用し、オンラインでの開催とした。

社会福祉士実習教育支援者研修は、受講者が業務上で参加がしやすいよう平日の午後に開催予定だったが、コロナ禍の影響で中止とした。近畿ブロック滋賀大会プレ企画は近畿ブロック大会が中止となったため開催が出来なかった。

これまでは集合形式での開催だった優秀実習先表彰だが、社会福祉士実習教育支援者研修の開催中止に伴い表彰式は中止、兵庫県下の社会福祉士養成校より「優秀実習施設・実習指導者」を推薦頂いた 3 施設へは表彰状の郵送をした。例年、養成校に出向いて実習生との現役社会福祉士が直接対話する「学生交流会」は、社会福祉士の存在意義をアピールすることで後進の育成につなげる活動で、養成校でも定着し定期的な依頼が来るようになっていた。しかし、今年度はコロナ禍の影響により 1 養成校のみの依頼で、養成校教員が現場の社会福祉士にインタビューを行った映像を授業で活用する形となった。養成校連絡会は 12 月に開催し、20 名の参加がありコロナ禍での実習の実施などについて情報交換を行った。本年度は委員会の開催は全て Zoom を使用し開催したため委員交通費の削減となった。

「社会福祉士実習指導者講習会」は毎年 1 回開催を継続しており、今年度は 53 人が修了。定員を昨年度の半分にし、入室前の検温、手指消毒、健康チェック表の記入、定期的な換気、フェイスシールドの着用といった感染対策を施したうえで開催した。

## 2 事業報告

### 『社会福祉士実習指導者講習会』

月	日	参加者	場所	内容
11	21	53 名	兵庫県福祉センター	実習指導概論、実習マネジメント論、実習プログラミング論
11	22			実習指導実践内容報告、実習スーパービジョン論

### 『学生交流会』

月	日	参加者	内容
10	15	3 名	(Zoom を用いた) 養成校教員による現場の社会福祉士へのインタビュー
10	22	3 名	
10	29	3 名	

### 『近畿ブロック実習担当者会議』

月	日	参加者	内容
5	30	1 名	第 1 回 実習指導者講習会について
7	18	1 名	第 2 回 実習指導者講習会について プレ企画中止
9	19	1 名	第 3 回 実習指導者講習会について プレ企画
10	10	1 名	第 4 回 プレ企画について
2	21	1 名	第 5 回 実習指導者講習会について

### 『委員会開催』

定例委員会：原則第 3 木曜日

月	日	参加者	内容
8	20	6 名	第 113 回委員会 養成校連絡会、実習指導者講習会について
10	8	8 名	第 114 回委員会 優秀実習施設へのヒアリングの報告、実習指導者講習会について 養成校連絡会について 2021 年度事業計画について

1	21	7名	第115回委員会 来年度の予定
---	----	----	-----------------

### 『養成校連絡会』

月	日	参加者	内容
12	17	20名	① 第17回 With コロナ時代における実習の受け方 および2020年度の実習状況

### 『日本ソーシャルワーク教育学校連盟近畿ブロックセミナー』

月	日	参加者	内容
3	7	1名	基調講演、新カリキュラム開始に向けて

## 1 総括

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の目的で、研修も委員会もすべてオンラインでの活動となった。顔を合わせての活動が制限されたことで、当委員会が力を入れている横のつながりを作ることに、大きな支障となってしまった。

そんな中で、初のオンライン開催となった実践報告会では、県内だけでなく関東や九州の仲間が参加してくださるなど、集合研修では難しい広がりも見出すことができた。県内外で活躍されている独立型社会福祉士からの魅力的な実践報告を受けて、現在独立されている方だけでなく、今後独立を目指している方へのよい刺激となったのではないだろうか。

毎年開催している倫理学習会も 2 月に開催予定としていたが、最小開催人数に達することができず、やむなく中止となってしまった。次年度以降、内容や広報について再検討が必要と思われる。

今年度は年 4 回配信したメールマガジンも内容をブラッシュアップして、独立型社会福祉士の活動報告やコラム、図書書評だけでなく、心理学や確定申告などの幅広い情報を登録会員へ提供することができた。

## 2 事業報告

月	日	参加者数	場 所	内 容
8	23	41 名	Zoom	実践報告会

月	日	登録者数		内 容
4	27	88	dommML	メルマガ「夢ふうせん」 vol. 29
7	10	88	dommML	メルマガ「夢ふうせん」 vol. 30
10	26	88	dommML	メルマガ「夢ふうせん」 vol. 31
1	26	88	dommML	メルマガ「夢ふうせん」 vol. 32

## 3 委員会開催日

月	日	参加者数	場 所	内 容
5	12	7 名	Zoom	年間事業計画について、メールマガジン発行について
7	14	12 名	Zoom	実践報告会 内容決定、全国大会（大阪）への協力について
9	22	8 名	Zoom	実践報告会 振り返り、倫理学習会 内容決定、情報共有
10	13	8 名	Zoom	倫理学習会 最終確認、メルマガ発行について
1	19	9 名	Zoom	今年度事業の振り返り、メルマガ担当者の変更について



## 1 総括

委員会では新たな委員を得て、定例委員会で情報交換や意見交換を行うことができた。障害児・者、福祉の様々なところで活躍する委員によって情報交換を行うことにより、障害・高齢に関わらず、複合的なニーズを持つ人々へのソーシャルワークを学ぶことができた。しかし、昨年度からのコロナ禍のため集合して委員会が開催できず、一部オンラインでの委員会となった。

今後も様々な分野で活躍する委員によって障害児・者、高齢に関わらず、現状・課題などについて情報交換、意見交換、又、学習会を通して障害福祉の動向や課題を知り、実践的な知識や技術を学んでいきたい。

## 2 事業報告

委員会は2か月に1回のペースで、第2日曜日に行ってきた。

日程	人数	場所	内容
8月9日	7名	東部在宅支援センター	委員会
10月11日	9名(5名Zoom)	東部在宅支援センター	委員会
12月13日	12名(Zoom)		委員会
2月11日	3名	東部在宅支援センター	研修打ち合わせ
2月14日	11名	東部在宅支援センター	委員会

3月7日 拡大学習会 「義務教育から高等教育そして就労へ」  
参加者32名(24名Zoom)

## 1 総括

少しずつ人数が増え会議室を借りて2か月に1回の定例会は5月のみコロナの影響で中止したが7月からはミニ学習会なども毎行いながら定例会をWebで開催できた。施設参観は行えなかったが、研修についてはWebで行った。

## 2 事業報告

- (1) フォレンジック・ソーシャルワーク研修 Web 開催 2021年1月31日(日) 32名参加(講師・ファシリテーター含む)
- (2) 毎月の触法障害者等の弁護・支援PT出席
- (3) 寄り添い社会福祉士の試行

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	15	0名	中止	
7	17	17名	Zoom	触法PT報告, 理事委員長会報告他
9	18	13名	Zoom	触法PT報告, 研修会について, ミニ学習会他
11	20	11名	Zoom	触法PT報告, 研修会について, ミニ学習会他
1	15	15名	Zoom	触法PT報告, 研修会について, ミニ学習会他
3	24	14名	Zoom	研修の報告及び振り返りと次年度活動について他

## 1 総括

総務会内に設置された退院支援アドバイザーを支援する「退院支援チーム」を 2014 年度より地域移行支援委員会と名称を改め委員会活動となった。

新型コロナの影響から、オンラインを活用して、委員会活動および学習会を開催した。

また、精神科医療の現場で起こった入院患者に対する虐待事案について、兵庫県精神保健福祉士協会とともに合同学習会を開催し、原因の究明と職能団体としての取組みのあり方を検討した。

## 2 事業報告

- (1) 神戸市および伊丹市等に勤務する退院支援員（社会福祉士）に対する助言、支援
- (2) 地域移行支援委員会設置による退院支援に関する専門研修の企画、調査研究活動
- (3) 退院支援員（社会福祉士）に対する助言、支援
- (4) 地域移行支援委員会の開催（7 月、11 月、1 月、3 月の隔月 4 回開催）

退院支援員の活動報告及び各委員からの情報交換を行った。

※5 月は新型コロナウイルス感染予防のため中止

- (5) 地域移行に関する専門研修（拡大学習会）の実施

11 月 12 日（木）19 時～20 時 30 分 神戸市勤労会館

内容：がんになったかかりつけ緩和医が語る「残り 2 年の生き方、考え方」

（講師：関本 剛医師）

参加者：123 人

関本先生は、緩和ケア医として、これまで 1,000 人を超えるがん患者の看取りをされてきたが、2019 年秋、ご自身が末期がんと診断を受け、現在も治療を続けながら、医療の第 1 線にて勤務をされている。

がん患者との立場をともにされた関本先生から実体験を通じ、あるべき緩和ケアのあり方や見える風景について学ぶ機会となった。

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
5	28	—		コロナウイルス感染予防のため中止
7	30	7 名	Zoom	情報交換他
9	24	10 名	ハイブリッド式	情報交換、合同学習会
11	12	123 名	神戸市勤労会館	拡大学習会
11	26	10 名	ハイブリッド式	情報交換、合同学習会
1	28	10 名	Zoom	情報交換、合同学習会
3	25	10 名	ハイブリッド式	情報交換、合同学習会

## 1 総括

当委員会は 2015 年度に施行された生活困窮者自立支援法発足と同時に、休会していたホームレス支援委員会の活動を引き継ぐ形で発足した。

今年度は緊急事態宣言に伴い9月までは定例会や研修会等を休止し、10月から委員会活動を再開した。委員会委員相互の情報共有や先駆的な取り組みを行う障害者就労支援事業所の見学など、対面式、オンライン形式の方法を試みた。

## 2 事業報告

### ホームレス支援

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	13	8名	武庫川河川敷、武庫大橋の北東（尼崎側）付近	兵庫県弁護士会の実施する「生活再建相談会」に協力 武庫川河川敷でホームレスに対する相談援助を実施
11	28	6名		

\*新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令により4月・6月・8月の定例委員会および8月に予定していた「滞日外国人ソーシャルワークフォローアップ研修会」は中止した。

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
10	7	11名	兵庫県福祉センター	(1)報告事項 各委員から (2)協議事項 ①委員会主催研修会について ②今後の委員会について
12	5	14名	就労移行支援事業所 アオシアジョブ川西 (川西市)	就労移行支援事業所「アソシアジョブ川西」の見学と CEO 神谷牧人さんのお話
2	6	12名	兵庫県福祉センター	(1) 各委員からの報告 (2) 次年度事業計画・事業予算について ・定例会の内容について ・主催研修について ・「滞日外国人ソーシャルワーク」について"

## 1 総括

2018 年度から実施している認証研修「災害支援活動者養成研修」は新型コロナの影響により中止となるとともに、近畿ブロック大会のプレ企画も近畿ブロック大会・滋賀大会は中止された、

2020 年度は、11 年ぶりに台風の上陸がなく、台風による被害はなかったものの、7 月には九州豪雨により、熊本・宮崎等の地域に甚大な水害をもたらした河川氾濫の恐ろしさを改めて実感することとなった。

今後、情報収集・発信の仕方、広域での協力体制の確保など教訓を今後の取り組みに生かしたい。

県からの委託事業については、2018 年度より「防災と福祉の連携促進事業」が全国セミナーとして開催され、委員も積極的に参加した。

本委員会としては、災害支援体制の構築を図り、災害支援活動者登録制度の運営（発災時対応、研修運営）の明確化、日本社会福祉士会が策定した「災害支援ガイドライン」に基づき、「災害支援に関する規程」を見直すとともに、作業部会を設置し、「災害支援マニュアル」および「災害支援活動者登録制度」の運用方法について検討を行うとともに、兵庫県版 DWAT の創設に向けて検討を行った。

## 2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
11	28 29	—	大阪府社会福祉会館	認証研修「災害支援活動者養成研修」（中止）
2	13	—	滋賀大会	近畿ブロック研修滋賀大会・プレ企画（中止）
2	16	15 名	オンライン（Zoom）	防災と福祉との連携促進シンポジウムへの参加

## 3 委員会開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	2	16 名	Zoom	災害支援委員会の事業計画、災害支援マニュアル等の検討
7	22	15 名	Zoom	九州豪雨についての情報交換
10	6	15 名	Zoom	災害支援活動者養成研修への協力 災害支援マニュアル等の検討
12	1	15 名	Zoom	災害支援マニュアル等の検討
2	2	17 名	Zoom	災害支援マニュアル・登録制度等の 検討（作業部会の設置）
2	27	10 名	ハイブリッド式 （福祉センター・Zoom）	災害支援マニュアル・登録制度等の検討 （作業部会）

## 1 総括

広く県民の方が利用できるよう、利用対象の拡大を図るとともに、2013年4月より愛称「福祉相談センター ここねっと兵庫」として事務局職員（相談員・ぱあとなあ業務兼務）を配置して行った。

相談件数は少ないため、今後さらに福祉相談センターの周知を図る必要がある。また、総合的な相談が増加し、構成委員会との連携を強化するとともに、包括的取り組みができるセンター機能の向上が必要となってきた。

## 2 事業報告

- (1) 毎日の相談受付と相談業務（構成委員会と連携を図りながら相談員による回答を行う）

構成委員会メンバー

- ①ぱあとなあ兵庫
- ②相談委員会
- ③ソーシャルワーク研究委員会
- ④こども家庭支援委員会
- ⑤高齢者・障害者虐待対応委員会
- ⑥地域包括支援センター支援委員会
- ⑦生活困窮者支援委員会
- ⑧障がい福祉委員会
- ⑨更生支援委員会
- ⑩研修委員会

- (2) 「ここねっと兵庫・ネットワーク会議」の開催（適宜）

- (3) 相談件数 28件

## 1 総括

当センターは、新生涯研修制度における基礎研修の企画・運営とともに、研修を開催する各委員会や地区ブロックによる研修の内容、日程の調整を行うことを目的として2013年度から立ち上がった。

## 2 事業報告

- (1) 基礎研修講師調整会議の開催 3月6日
- (2) スーパービジョン研修受講生の推薦 6名 (SV登録者 24名)
- (3) スーパービジョンの開催 25名受講
- (4) 基礎研修の開催
  - 基礎研修Ⅰ 68名修了 (77名申込)
  - 基礎研修Ⅱ 58名修了 (68名申込)
  - 基礎研修Ⅲ 61名修了 (68名申込)

## 1 総括

2020年度は2019年度に引き続き明石で開催すべく準備をし、予定していた数の企業・団体から協賛も得られ出演団体とも交渉を重ね、7月開催に向け準備をしていたが新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発出を受け5団体で協議した結果4月には開催中止の判断となった。

2021年度のソーシャルワーカーデーについては新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら5団体で協議を重ね、これまでとは違った開催方法も視野に入れて検討していく。

## 2 事業報告

介護福祉士会、介護支援専門員協会、精神福祉士協会、医療ソーシャルワーカー協会及び本会の担当者による協議を継続的に実施し、効果的なソーシャルワーカーデーの実施を検討した。

## 3 会議開催日

月	日	場 所	内 容
9	9	Zoom	コロナ禍での各団体情報交換
2	22	Zoom	コロナ禍でのソーシャルワーカーデー実施方法について検討
3	29	Zoom	コロナ禍でのソーシャルワーカーデー実施方法について検討



## 1 総括

全国的に社会福祉士資格取得者の組織化率は年々低下する中、本会は重点的に組織力向上に取り組んだが、2020年度の会員数は新型コロナの影響が大きく、1,750人から1,770名の微増に留まった。組織率は15%台を維持しているものの、全国平均の18%台には及んでいない。

このような状況の中、組織力の向上や本会の発展を中・長期的観点から一層取り組む必要があり、アンケートおよびワークショップ等を通じて、第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」の策定に取り組んだ。

組織力向上戦略会議（以下「戦略会議」という）はオンライン会議（Zoom）において、入会促進及び退会防止策等について具体的な方策を検討するとともに、10月には、SWD 5団体による合同研修を開催した。また、2023年7月には、本会創設30周年を迎えるため、編纂部会を設置し、30周年記念事業の準備を進めた。また、こどもの権利擁護研究プロジェクトチーム（こどもPT）において、未成年後見のあり方について引き続き検討を行った。

## 2 事業報告

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	27	—	福祉センター	はじめのいっぽ♪（中止）※納涼会にて代替実施
9	16	7名	Zoom	5か年計画（ワークショップ）
9	27	8名	Zoom	5か年計画（ワークショップ）
10	17	31名	Zoom	SWD 5団体合同研修「with コロナ時代におけるSWとは」

## 3 会議開催日

月	日	参加人数	場 所	内 容
6	4	5名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」検討
7	2	5名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」検討
8	6	6名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」検討
8	18	3名	Zoom	30周年記念事業検討（記念誌検討）
9	3	7名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」検討
10	8	7名	Zoom	アンケート・ワークショップ集約
10	19	3名	Zoom	30周年記念事業検討（記念誌検討）
11	5	8名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」素案
12	3	8名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」素案
1	7	9名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」素案
1	18	6名	Zoom	30周年記念事業検討（記念講演検討）
2	4	8名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」（案）
3	3	6名	Zoom	30周年記念事業検討（記念講演検討）
3	4	7名	Zoom	第2期中期計画「兵庫県社会福祉士会 2025・5ヵ年発展計画」（案）

## その他兵庫県からの受託事業

### 住宅確保要配慮者居住支援事業

#### 1 概要

この事業は、住宅確保要配慮者の住まい確保を含む居住支援を行っている団体の発掘及び育成を図ることを目的とした「平成29年度ひょうご居住支援団体発掘・育成支援事業」への応募に端を発する。その後、住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律（通称：新たな住宅セーフティネット法）に基づく、「居住支援法人」に2018年5月31日に指定された。当会が実施する主な居住支援業務は、円滑な入居の促進に関する援助（入居前支援）である。

2020年度は、国の居住支援法人活動支援事業補助金（期間：2020年6月16日～2020年1月31日）を受けつつ、1年間継続して事業を実施した。また、2020年11月には居住支援窓口専用電話番号を新設し、相談支援の体制を強化した。更に、新たなチラシを作成し、研修時に配布する等、広報に努めた。

#### 2 事業報告

- (1) 相談件数：延べ相談対応件数 204件、相談実人数 32人、延べ同行支援件数 25件
- (2) 研修会の出席：神戸市居住支援協議会や、ひょうご住まいづくり協議会、宝塚市居住支援協議会主催の研修会や会議に出席し、他の居住支援法人や、社会福祉協議会、行政（生活保護課、介護保険課等）等の関係機関との交流を深め、情報交換を行うなどし、本会の活動内容の普及に努めた。
- (3) 平日の10時から16時まで電話相談窓口を本会事務局内に設置して、相談支援員を常時配置した。2020年11月に居住支援窓口専用電話番号を新設した。
- (4) 新たなチラシを作成し、HPに掲載した。研修時に配布した他、全会員にも配布した。

### 医療的ケア児等コーディネーター養成研修等事業

#### 1 概要

医療技術の進歩等を背景としてNICU等に長期間入院した後、引き続き人工呼吸器や胃瘻等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な障害児（医療的ケア児）が増加している。

この事業は、医療的ケア児が地域において必要な支援を受けることができるように、また、医療的ケア児等が地域で安心して暮らしていけるように、支援者養成研修ならびにコーディネーター養成研修を開催し、地域において医療的ケア児等に対する支援が適切に行える人材を養成することを目的としている。

2020年度は支援者養成研修を会場定員の1/2に、コーディネーター養成研修を1/3に設定し、入室前の検温、手指消毒等の感染対策に努めながら集合型で開催した。2度目の緊急事態宣言発令に伴い、コーディネーター養成研修の開催日を神戸・姫路会場とも延期し、神戸会場に至っては緊急事態宣言の延長により開催自体が中止となった。

#### 2 事業報告

- (1) 医療的ケア児等支援者養成研修（2日間）
  - ・神戸会場 修了者数 82名
  - ・姫路会場 修了者数 51名
- (2) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修（2日間）
  - ・姫路会場 修了者数 40名

# 障害者差別解消相談センター事業

## 1 概要

2016年度より始まったこの事業は、障害者差別解消法第14条の規定により、障害者差別に関する紛争の防止や解決に必要な体制を整備するため、県障害福祉課内に「障害者差別解消相談センター」を設置し、県職員とともに専門職である社会福祉士と精神保健福祉士が、障害者等からの相談等に対応するものである。

## 2 事業報告

本会と兵庫県精神保健福祉士協会から、1日1名の相談員を県に派遣した（平日10～16時）。  
本会からは15名の会員が障害者等からの電話相談に対応するとともに、社会資源等の案内を行った。

# 防災と福祉の連携による個別支援計画作成促進事業

## 1 概要

本事業は、主に福祉専門職を対象とした「防災対応力向上研修」と、その研修を受講した福祉専門職が地域住民と共に、避難行動要支援者の個別支援計画作成する事業の二本立てとなっている。

「防災対応力向上研修」では、ケアマネジャーや相談支援専門員といった福祉専門職が災害と災害リスクを正しく理解し、避難行動要支援者に対する支援を行うための知識とスキルを身に付け、地域住民・自治体職員等と協力して、避難のための個別支援計画作成するための実践力を習得することを目標とする。一方、「個別支援計画作成促進事業」は、要支援者と地域住民、福祉専門職が協力して個別支援計画作成し、避難訓練を実施することで、実効性のある計画作成促進を目標としている。本会は実行委員会事務局として、県下市町の事業実施のサポートや交付金交付事務等を行った。全国的に兵庫県モデルが注目されており、静岡県、徳島県に出向き、行政職員・福祉専門職に対し研修を行った。

## 2 事業報告

### (1) 福祉専門職対象防災対応力向上研修

2020年8月27日～2021年1月15日、県内11会場・計12回、受講者数491名

### (2) 防災と福祉の連携促進シンポジウム

事業の総括的なイベントとして、事業実行委員会と関西広域連合の主催でシンポジウムをオンラインで開催した。

2021年2月16日開催 申込者578名、当日ライブ視聴者 約430名

### (3) 意識調査

研修を受講した福祉専門職と、兵庫県介護支援専門員協会員のケアマネジャーを対象に、防災に対する意識や利用者に対するの取り組みについての調査を実施した。

回答数／受講後調査：192名 介護支援専門員協会調査：114名

### (4) 市町担当者ヒアリング

2021年3月2日～3月29日、県内41市町を対象に、当該事業の本年度の取り組み内容について、Zoomにてヒアリングを行った。

### (5) 事業報告書

防災と福祉の連携による個別支援計画作成促進事業報告書（2021年5月発行）作成

# 地区ブロック報告

# 神戸地区ブロック

## 1 総括

新型コロナウイルスによる影響により、集会することができず、やむなく総会は書面評決とし、計画していた記念シンポジウムも中止とした。また、役員会と行事関係は6月以降オンライン開催とし、さらに神戸ブロック担当の福祉セミナーも1年延期し、2021年10月開催予定とするなど、計画のほぼ全てを中止、延期するという状況であった。

その一方で、コロナ禍に見舞われた故の“会の在り方”も見えてきたように思われる。例えば「トークイベント」はオンラインを通じての初めての開催であったが、むしろ普段着の身近なものになったのではないかと捉えている。なお、計画していた「コロナ禍における社会福祉士の声（仮称）記録集」については、調査研究委員会で同様の調査をしていることから、ブロック独自の実施は中止した。

2021年度においても、コロナ終息の見通しは立たず、同様の状況が続くと思われ、大幅に事業を拡大することは困難とは思いますが、そのような中でも内容を十分に検討し、また工夫をこらしながら、可能なことは実施していきたいと考えている。

## 2 事業報告

### (1) 総会：書面評決

2020年6月13日(土)

回答数：349名（ブロック会員数：524名）

第1号議案～第5号議案 賛成多数で可決

### (2) オンライン忘年会「Zoomで忘年会」

2020年12月5日（土）19：00～20：00

参加者数：7名

### (3) オンライン・トークイベント Zoom「新旧会長：兵庫県社会福祉士会を語る」

2021年2月27日（土）18：00～20：00

参加者数：25名

### (4) 神戸ブロック会・理事会の開催

月	日	参加者数	会場	内容
4	5	7名	善正寺	総会について 2020年度の活動の見直し（コロナ禍）
5	10	5名	兵庫県社会福祉士会事務局	総会議案集送付作業
9	6	11名	Zoom	福祉セミナーについて
11	29	8名	Zoom	オンライン忘年会について トークイベントについて
12	5	7名	Zoom	福祉セミナーについて
12	27	8名	Zoom	福祉セミナーについて
1	10	8名	Zoom	トークイベントについて
2	27	10名	Zoom	トークイベント反省会 次年度総会・事業計画について 福祉セミナーについて
3	22	10名	Zoom	次年度総会・事業計画について

# 阪神地区ブロック

## 1 総括

一般社団法人兵庫県社会福祉士会の阪神地区ブロック（以下「ブロック」という）は、ブロック設立14年目を迎え、ブロック活動への参加促進、ブロック会員間の交流・ネットワーク構築などを重点課題として、様々なブロック全体活動および各部会活動を展開した。

ブロック全体事業では、5月「ブロック総会」は集合形式を中止し、書面評決にて行い、過半数以上の返送があり承認された。10月「学習会」は「新型コロナの影響とマインドフルネス」をテーマにオンライン（Zoom）により開催し好評であった。また、国家試験対策委員会と協働し、10月～1月に「阪神自主ゼミ」をオンライン（Zoom）にて開催した。今年度はブロックの集い場は残念ながら開催できずに終わった。

今後、コロナの動向を見据えながら、身近な地域での学習会での専門性の研鑽、会員間の顔の見えるつながりづくりにオンラインなどのツールを使いながら開催検討したい。

部会活動では、障がい福祉部会や地域包括支援センター部会、生活困窮者部会、災害支援部会において兵庫県社会福祉士会活動への協力を積極的に行った。

## 2 事業報告

### 1. 組織運営

- ①ブロック総会 書面評決（347通）により承認
- ②ブロック役員会 6月23日、9月16日、11月19日、1月30日、3月17日（計5回）  
すべてオンライン（Zoom）にて開催

### 2. ブロック全体事業

- ①5月 阪神ブロック総会 書面評決にて承認
- ②10月2日 ブロック学習会「新型コロナの影響とマインドフルネス」  
講師：関西学院大学 池埜 聡先生（オンラインにて開催・38名参加）
- ③10月3日 クリニカルアート研修（8名参加）
- ④10月4日 ヨーガ体験講座（7名参加）
- ⑤10月～1月 阪神ブロック・自主ゼミ（4回・オンラインにて開催・6名参加）
- ⑥1月30日 新年会（オンラインにて開催）（29名参加）

### 3. 部会活動

- (1) 障がい福祉部会  
兵庫県社会福祉士会の障がい福祉委員会に参加・協力した。
- (2) 地域包括支援センター部会
  - ①兵庫県社会福祉士会の地域包括支援センター支援委員会に参加し、兵庫県委託事業「困難事例対応力向上研修」に協力。
  - ②宝塚市地域包括ケア研究会への協力（共催）
- (3) 生活困窮者部会  
兵庫県社会福祉士会の生活困窮者支援委員会に参加・協力した。（2月）
- (4) 災害支援部会  
兵庫県社会福祉士会の災害支援委員会に参加・協力した。（6・8・10・12・2月）
- (5) 尼崎部会（集い場中止）
- (6) 芦屋・西宮部会（集い場中止）
- (7) 宝塚・伊丹・三田部会（集い場中止）
- (8) 川西・猪名川部会（集い場中止）

#### 4. 事務局

- ①研修担当 研修会の企画、運営を行った。
- ②広報担当 こうのとり通信「阪神ブロックインフォメーション」への掲載。
- ③パソコンネットワーク担当 会員および役員のML 運営やHP 管理を行った。
- ④初任者イベント担当 初任者向けの学習会などイベントを企画した。
- ⑤阪神自主ゼミ担当 国家試験対策委員会と協働し、「阪神ブロック・自主ゼミ」を開催

#### 5. 兵庫県社会福祉士会への協力

- ①J R 西日本相談センターへの協力 会員の派遣と社員研修への協力
- ②障害者差別解消相談センターへの協力
- ③災害支援者研修支援事業への協力

# 東播地区ブロック

## 1 総括

東播地区ブロックは、明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町の南播磨と、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町の北播磨の8市3町のエリアを区域として、地域に根差した活動を行ってきた。大きな目標は、2020年度も引き続き、「行けば会える」「点がつながり、線を広げる」をブロック活動の軸として、分野や世代・キャリアを超えたネットワークの拡大を図っていくことであった。社会福祉士として専門分野の視点だけでなく、ソーシャルワークを基盤とした幅広いジェネリックな視点を持ち、この東播地域で活動しやすいようにいろいろな人々とのつながりを広げ、信頼関係を深めていくことを目標として、ブロック活動に取り組んできた。

しかしながら、2020年度は新型コロナ禍の影響により、ブロック事業をほぼ実施できなかった。上半期はコロナ禍の影響による社会の動向に合わせて、ブロック事業をすべて自粛したが、下半期はコロナ禍が収束しない中でオンライン活用によるブロック活動を検討した。そして、会員同士が集まって直接顔を合わせることができない状況のもと、オンラインの活用によって会員同士の交流を図ることができるのかという問題に直面し、結局、ブロックのメイン活動である「集い場」を実施できなかった。それでも、Zoomによる研修が普及する中、令和3年3月の東播ブロック自主企画研修では、初めてZoomによるオンライン研修を開催できた。

コロナ禍が収束しないことと、オンラインによる会議や研修、交流手段がメインになってきたことから、次年度はオンラインによるブロック活動、交流活動をさらに推進していきたい。

## 2 事業報告

- (1) 東播地区ブロック「第12回総会」の開催 ※書面議決  
令和2年5月25日(月) 書面議決の締切り

- (2) 東播地区ブロック理事会の開催(6回)

2020年4月2日(木) 19:00～20:00	Chatworkによるオンライン会議 ・2020年度第12回東播地区ブロック総会の準備、役員改選、年間事業計画、県理事会の報告等
2020年5月30日(土) 10:00～11:00	ブロック長と副ブロック長が集合、Chatworkによるオンライン会議 ・2020年度第12回東播地区ブロック総会(書面議決の集計報告)、年間事業計画の見直し、県理事会の報告
2020年8月18日(火) 19:00～20:00	Zoomによるオンライン会議 ・新役員の自己紹介、事業進捗状況の見直し、県理事会の報告
2020年12月14日(月) 19:00～20:00	Zoomによるオンライン会議 ・自主企画研修の進捗状況、県理事会の報告
2021年1月19日(火) 19:00～20:00	Zoomによるオンライン会議 ・自主企画研修の進捗状況、県理事会の報告
2021年3月1日(月) 19:00～20:00	Zoomによるオンライン会議 ・自主企画研修の準備・当日役割分担、県理事会の報告



(3) 研修会等の開催 (1回)

2021年3月7日(日) 13:30~16:30	令和2年度自主企画研修 Zoom オンライン研修 ・テーマ:SDGsと「福祉」と「私たちの未来」 ・講師:土原 翔吾 氏 ・参加者:合計31名(参加申込20名、スタッフ11名)
-----------------------------	---

(4) 広報ネットワーク活動

- ① 東播地区メーリングリスト
- ② Facebook (フェイスブック)
- ③ 会員向けの県本会広報誌「こうのとりの通信」の活用(当ブロック事業の広報、事業の報告)
- ④ 市民向けの広報誌「兵庫県社会福祉士会」の配布  
(当ブロック内の行政窓口、社会福祉協議会、地域包括支援センター等)
- ⑤ 東播地区ブロック理事会で Chatwork を使った情報共有、Zoom によるオンライン会議
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大の対応として、Zoom によるオンライン自主企画研修

# 西はりま地区ブロック

## 1 総括

今年度は新型コロナウイルスの蔓延により緊急事態宣言が発令され、ブロック活動も制限する状況となった。それに伴い Zoom を活用した役員会や交流会という新しい取り組みを行う事となった。今後もオンラインを活用した取り組みを進めていく。

## 2 事業報告

(1) 2020 年度 一般社団法人兵庫県社会福祉士会  
西はりま地区ブロック総会  
日時：2020 年 5 月 16 日 (土)  
書面決議

(2) 第 1 回 会員交流事業納涼会開催協力  
日時：2020 年 8 月 29 日 (土) Zoom 開催  
内容：「会員交流、西はりまブロックの紹介」

(3) 忘年会開催協力  
日時：2020 年 12 月 19 日 (土) Zoom 開催  
内容：「会員交流、西はりまブロックの紹介」

(4) 西はりまブロック交流会①  
日時：2021 年 1 月 31 日 (日) Zoom 開催  
内容：会員の交流、情報交流 参加者 16 名

(5) 役員会 (研修会打合せ等) いずれも Zoom 開催  
7 月 22 日、12 月 15 日、1 月 31 日

(6) 懇親会・プレミアムフライデー  
中止

# 但馬地区ブロック

## 1 総括

本年度は年当初から新型コロナウイルスの感染が拡大し、非常事態宣言下での始まりとなった。感染防止を徹底しつつ、活動を継続するための対応・対策を模索し、新しい方法としてリモートでの会議、会員間の交流が取り入れられた。この新しいコミュニケーション手段（Zoom を利用）を取り入れるための会員各自の環境整備並びに利用方法習得にお互い協力した。このコロナ渦の中で活動が制限された面は大きいですが、急速に進むリモートワーク環境は逆にもともとからの活動の妨げである地理的広範さを克服する有効な手段であり、兵庫県社会福祉士会も会議・研修への導入を積極的に試みている。但馬においても各会員が福祉専門職として、リモートワークのリテラシーを獲得できるよう支援した。

新型コロナウイルスの影響による社会変化への対応の方向性は、これまで進めてきた但馬地域の取り組みの方向性に一致する。今後より具体的に多職種連携を推し進め、ますます弱体化していく医療サービスをいかに有効に活用していくのかを検討し、但馬地域全域で安心・安全な社会生活を確保していくためのネットワーク構築に向け、社会福祉士としての専門性を生かし活動していかなければならない。

## 2 事業報告

### 1. ブロック総会

日時：令和 2 年 10 月 17 日（土） 午後 1 時～

内容：「その人らしさを支える」～認知症ケアの視点から～

講師：加藤忠相氏（株式会社あおいけあ代表取締役・NPO 法人ココロまち 理事長）

場所：豊岡市役所立野庁舎 1F 多目的ホール（豊岡市立野町 12-12）

\*介護支援専門員協会但馬支部共催

### 2. 定例役員会

☆ 令和 2 年 6 月 5 日より 8 月 7 日まで、各金曜日 午後 7 時から午後 8 時

Zoom 接続練習並びに情報交換

その他 随時オンラインでの打ち合わせ

### 3. 特別学習会

日時：令和 2 年 8 月 28 日（金）午後 7 時～

内容：県内の社福士の成年後見制度の受任状況と課題

ゲスト：ばあとなあ兵庫 魚住委員長

場所：Zoom

### 4. その他共催事業

#### (1) 但馬地域医療連携シンポジウム

日時：令和 3 年 1 月 30 日（土） 午後 3 時～午後 4 時 30 分

内容：「減少地域における公立病院の取り組み」

～統合再編から ICT を活用した医療・介護連携へ～

講師：島貫 隆夫 先生（日本海総合病院 院長）

場所：Zoom

# 丹波地区ブロック

## 1 総括

丹波地区ブロックは、これまで社会福祉士による権利擁護活動や地域福祉実践がより一層推進されるよう、研修や交流会を通してブロック活動の充実、会員間ネットワークの強化に重点的に取り組んできたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、従来の活動を縮小せざるを得ない状況であった。

そのような中でも、役員会をオンライン形式に移行し、2月には初めてのオンライン研修及び会員交流会を企画、実施することができた。

次年度以降についても、継続してオンラインによる活動を模索しながら、ブロック活動の充実を図っていきたい。

## 2 事業報告

- (1) 2020年度 一般社団法人兵庫県社会福祉士会丹波地区ブロック総会  
日時：2020年6月18日（木）書面議決
- (2) 研修 日時：2021年2月27日（土）16：00～18：00  
場所：Zoom  
内容：①「コロナ禍におけるブロック会員の実践報告」  
報告者 兵庫医科大学ささやま医療センター 樋谷顕祐 氏  
丹波篠山市東部地域包括支援センター 岩木太一朗 氏  
わかたけ福祉会丹波篠山市障害者総合支援センター 内藤篤志 氏  
②意見交換及び会員交流
- (3) 社会福祉士によるまちかど福祉、介護無料相談会・活動展示会  
感染拡大防止のため、今年度は実施せず。
- (4) 役員会  
2020年6月18日（木）、7月10日（金）、10月1日（木）、10月26日（月）、  
2021年1月16日（土）、3月23日（火）  
※6月18日以外は、Zoomによる開催

# 淡路地区ブロック

## 1 総括

当ブロックは設立当初より「ネットワーク作り」や「仲間作り」をテーマに活動をしてきた。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、従来通りの活動が出来なかったが、2021年2月にオンライン（Zoom）での研修会を開催することができた。2021年度も新型コロナウイルス感染症の状況を見極め、感染防御しながら、オンラインも利用しネットワーク作りや仲間作りを行っていききたい。

## 2 事業報告

### (1) 組織運営

#### ①淡路ブロック総会

日時：2020年5月19日 書面議決

内容：2019年度事業報告、2019年度決算報告  
2020年度事業計画、2020年度予算についての採決

#### ②役員会

##### <第1回>

日時：2020年10月27日（金）20：00～22：00 Zoom

内容：2020年度淡路ブロック研修について

##### <第2回>

日時：2020年11月27日（金）20：00～22：00 Zoom

内容：淡路ブロックの運営について

### (2) 事業

#### ①研修会「Zoomを上手く使いこなせる研修+身寄りがない方への支援について」

ガイドラインを知って、事例検討

日時：2021年2月27日（土）20：00～22：00 Zoom

参加 16名

内容：①Zoomの基本的な使い方を共有

②講義 身寄りがない方への支援

淡路医療センター 古家 英敬 氏（淡路ブロック 役員）

③意見交換

### (3) その他

#### ①まちかど無料相談会・活動展示会の実施

今年度は洲本社協まつり中止に伴い、中止

#### ②淡路圏域リハビリテーション部会

※淡路圏域のPT・OT・STの研修会立案等

実務者会議 毎年、年4回参加していたが、今年は中止